

このページの見方

レイアウトは今後予告なく変更することがあるかもしれないよ。デザイン素人が勉強しながら作るからね。ごめんよ

語彙・表現

固有文字表記 (ラテン表記) ; 日本語でのだいたいの意味

太文字はアクセントが置かれる音

例

Φ (pa) ; 一人称代名詞/私

たまに語彙以外の何かをテキストに説明してるよ。臨機応変ってやつだね！

| 文の終わりに置く。日本語の句点(。)

; (:)の代わりに使う。LPN では : が文字の表記に使われるため、混乱を避けるため。

<> LPN の引用符。日本語の「」

解説

キーポイント！

- 新しい語の解説は多くの場合 固有文字(ラテン表記)の順で表記します。
- ラテン文字のみで発音のイメージがつかみにくい方のために、カタカナ表記を付すこともあります 固有文字(ラテン表記/カタカナ)
- 将来的には音声データも付けて発音を耳で聞いて練習できるようにしていきたいです。

例文

学習したキーポイントと語彙を使った例文を掲載するよ。

(SPL) 固有文字; O o Φ Φ 𑖀 𑖁 Δ 鳳凰 |

(LTT) ラテン表記; ha he pa pyelwaco: se 鳳凰 ey

(JPN) 和訳; 鳳凰を今まで一度も見たことがない。

固有文字を使った正書法では本来分かち書きをしないけど、ラテン表記の際には見やすくするために助詞の意味の切れ目(助詞の前後)に空白をはさむことが多いよ！

たまに例文以外の何かを掲載しているよ。空間の有効活用だね！

Iwipyono の概要

Iwipyono (LPN)ってどんな言語?

文構造

- 機能語(助詞)によって語の役割が決まる膠着語
- 機能語は内容語の前に置く
- 基本の語順は SVO
- 基本は後置修飾

例文

固有文字; Φ Φ Φ Δ りんご^ㄝ |
 Φ ;動作標示, Δ ;直接目的語

ラテン表記; pa pesotya se りんご ey |

和訳; 私は リンゴを 食べています。
日本語との語順の違いに注意!

解説

Iwipyono (LPN)は Twako によって作られた人工言語です。もともとは、制作者が個人で使うための暗号として 2022 年に開発が始まった言語で、2025 年にネット上で一般公開されました。

LPN の主な特徴として「音と綴りだけで機能語かそうでないかが判断できる」「自由に借用語を使うためのルールが備わっている」「文法とは別に話すときのエチケットが定められている」などが挙げられます。

ここでは、LPN という言語のおおまかなイメージを掴んでいただくために、言語の特徴をざっくりと見ていきます。

文の種類

- 存在文; S にあたる要素だけで成り立つ文章。日本語の「～がある」などの表現に該当。名辞文。例; \langle 犬^ㄝ \rangle 犬がいる。
- 動作文; V にあたる要素を含む文。例; \langle 犬^ㄝ Φ 吠える^ㄝ \rangle 犬が吠えている。

語の種類と品詞

- 固有語; LPN 固有の語で、語源などを他の言語と一切共有しない。
- 借用語; LPN 以外の言語から借用する語。特にどの言語から借用するという決まりはないため、自由な言語の自由な語を自由な活用形で借用してよい(なるべく辞書形で借用する)。借用する際には、語尾に^ㄝ (ey/エイ)を付ける。
- 必須語; 固有語の中でも特に借用語での代用が認められていないもの。一人称や基本の助詞など LPN の言語構造や言語の根幹に関わる部分が借用語による影響を強く受けすぎて変化しないようにするために定められている。
- 内容語と機能語; LPN には品詞に相当する概念はなく、語の機能は機能語によって判断する。機能語は内容語の前に置かれる。

活用と時制

-LPN に動詞の活用はなく(そもそも動詞という品詞の概念が存在しない)、時制は異なる機能語を用いることで表す。

-LPN には三つの時制がある。

- 現在; すでに発生したが、完了していない動作
- 未発(未来); まだ発生していない動作
- 完了(過去); すでに完了した動作

例文

固有文字; Φ Φ Φ Φ Δ りんご Ψ |
 Φ ; 動作標示(未来)

ラテン表記; pa pwesotya se りんご ey |

和訳; 私は(これから) リンゴを 食べる。

固有文字; Φ Φ Φ Φ Δ りんご Ψ |
 Φ ; 動作標示(過去)

ラテン表記; pa pyesotya se りんご ey |

和訳; 私は リンゴを 食べた。

否定

-否定したい部分の機能語の直前に \ominus (ne/ヌ) を置く。一般的には動作標示の Φ の直前。

e の音は schwa(シュワ)で、ウにもエにも聞こえるような曖昧な音

例; $\langle \Phi \ominus \Phi \Phi \Phi \Delta \Delta \Psi \rangle$ 私は犬が好きではない。

例; $\langle \Phi \Phi \Phi \Phi \ominus \Delta \Psi \rangle$ 私は犬は好きではない。

\ominus の位置で細かなニュアンスの違いを表現できる!

疑問

-Yes/No 疑問; 質問したい部分の機能語の直後に \ominus (nye/ニエ) を置く。一般的には動作標示の Φ の直後。

例; $\langle \Phi \Phi \Phi \Phi \Delta \Psi ? \rangle$ 犬は好きですか。

例; $\langle \Phi \Phi \Phi \Phi \Delta \Phi \Psi ? \rangle$ 犬が好きなんですか?

え、猫じゃなくて!? \ominus も位置によってニュアンスを変えることができます。

-Wh 疑問; 質問したい部分の機能語の直後に \ominus_K (nyez/ニエ Ψ) を置く (Ψ は英語の sh の音)。

例; $\langle \Phi \Phi \Phi \Phi \Delta \Phi_K ? \rangle$ 何が好きですか。

語の修飾

-後置修飾で、修飾語として使う内容語の前に + (ho/ホ) または - (hi/ヒ) を置く。修飾語を足したり (+) 引いたり (-) するイメージ。

例; $\langle \text{りんご} \Psi \text{ + 大きい} \Psi \rangle$ 大きな リンゴがある/大きなリンゴだね などの意味

例; $\langle \text{りんご} \Psi \text{ + } \ominus \Psi \rangle$ 大きな リンゴがある。($\ominus \Psi$; 「大きさ」)

例; $\langle \text{りんご} \Psi \text{ - } \ominus \Psi \rangle$ 小さな リンゴがある。(「大きさ」が足りない=小さい)

このように、固有語での言い方が分からないときは借用語を使っても OK! Ψ (ey/エイ) を付けるのを忘れずに!

発音とアクセント

LPN で使われる音と音節の仕組み

音節の例

上音(p)+下音(a)+末音(なし) = pa (私)

上音(p)+下音(a)+末音(m) = pam (数字の一)

上音(s)+下音(wa)+末音(z) = swaz (~と)

上音(k)+下音(o)+末音(なし) = ko (はい)

上音(k)+下音(o)+末音(m) = kom (多い)

複数の音節が連なって熟語を作ることもあります。

pya (人)

pyato (親)

アクセントは例外なく一つ目の音節に置かれて、他の音より強く(高い音)で読まれます。

発音(音素)

LPN には三種類の音があります。

-**上音(子音)**; h, p, s, t, c, l, k, n の 8 種類があります。

-**下音(母音/半母音)**; a, o, i, wa, wi, ya, yo, e, we, ye の 10 種類があります。

-**末音(子音)**; m, z, :, f, q の 5 種類がありますが、f と q はほとんど使いません。「:」は「r」で代用されることもあります。

これら一つ一つの音は意味を持ちませんが、上+下+末の三つの音が組み合わさって「(音の集合)=音節」を作ることで初めて意味のある音になります。

文字と音の対応

上音

上音の h, p, s, t, k, n は見た目通り、それぞれハ行、パ行、サ行、タ行、カ行、ナ行に対応しています。

IPA(国際音声記号)ではそれぞれ表記通り[h], [p], [s], [t], [k], [n]に対応します。(IPAがよくわからないという方は、読み飛ばしてしまってもかまいません。ですが新しい言語の発音を学ぶときに役に立つ概念ですので、気になったら調べてみましょう!)

c は日本語で言うと「ツァ、ツイ、ツォ」などで使われる音です。IPA では[ts̺] で表記します。l は英語の“L”の音と同じで、上の前歯の裏側に舌を付けて「ラ」と発音します。IPA では[l̪]で表記します。

下音

下音の a, o, i は見た目通り「ア、オ、イ」の音です。o は厳密には日本語よりも少し唇を突き出すようにして発音しますが、母音の区別が少ないので正確に発音しなくてもコミュニケーションに支障が出ることはほぼありません。それぞれ主に[a/ä], [o], [i]で表されます。

読み方の例

pa (パ)

pam (パム)

si (スイ) 日本語のシとは異なるので注意

siz (スイジ)

swa (スワ/ソア)

sya (ピャ/ピア)

syaz (ピャジ/ピァジ)

ce (ツ/ツエ)

cwe (ツウエ/ツオエ)

cye (チェ/ツイエ)

カタカナでは上手く表記できない音もいくつかありますが、LPNは発音の自由度が比較的高い言語なので正確に発音できなくても大丈夫です。難しくてよくわからないと思った発音は、いきなりマスターしようとせず、他の項目を学びながらゆっくり慣れていきましょう。

また、2025年5月現在、XのアカウントにていくつかLPNに関する動画を投稿していますので、実際の発音を聞いて音のイメージを掴んでください。

wa, wi はカタカナで表記すると「ワ、ウィ」のような音になりますが、二重母音として「オア、オイ」のような音になることもあります。

ya, yo はカタカナで表記すると「ヤ、ヨ」の音になりますが、二重母音として「イア、イオ」のような音になることもあります。

e は少し注意が必要です。LPNでは「エ」ではなく、曖昧母音(schwa)を表し、カタカナで言うと「ウ」と「エ」の間のような音になります。IPAでは[ə]で表されます。具体的に「この音を出そう！」と意気込まずにだらしなく口を開けて弱めに発音をするとこの音に近くなります。難しい！と思ったら、唇を丸めずに力を抜いて「ウ」と言ってみましょう。

we, ye はそれぞれ **e** の音の頭にそれぞれ w または o、y または i の音を付けて発音します。

末音

m は見た目通りマ行で読みますが、後ろに母音がないので、子音の m だけを読みます。唇を閉じたままで軽く「ム」と言うようにして発音します。小さい「ム」で表すこともあります。

z は少しややこしいと思う方もいるかもしれませんが、英語の sh やフランス語の ch, カタカナでは「シュ」のような音を表します。IPAでは[ʃ]で表されます。

m と同じく子音のみで読みます。炭酸のペットボトルを開けるときの音を真似て「ぶしゅ」と言うときのように、息だけで音を出します。カタカナでは「ジ」のように表記することもあります。

⋮ については次の声調の項目で詳しく学びます。

f, q はそれぞれ IPA で [f], [q] にあたる音で、どちらも日本語にはない音ですが、あまり使うことがない音なのでここでは発音の説明を割愛します。興味がある方はそれぞれの発音記号を調べてみてください。

ピッチと声調

「ああ→やっちゃった」と
「ああ→またかあ」の二つの「あ
あ」イメージ

読み方の例

高く読む音に下線を引いてあります。

pa (パ) 一文字だけの文字は常に高く読まれる。

pam (パム)

soka (ソカ)

soz (ソジ) zで終わるのでアクセントなし

se (ス/セ) eで終わるのでアクセントなし

kaka (カカ)

kaka: (カカ↗)

swita: (サピョルワ↗)

ピッチと声調

LPN では音の高さによって言葉の意味やニュアンスが変わることがあります。音の高さは主に以下の四つのルールに従って決まります。

(1) 母音は平べったく同じ高さを保ったまま発音する。「ああ→やっちゃった」というときの「ああ」のイメージです。

(2) 単語の一つ目の母音を後ろの母音より高く読む。

(3) 例外; ho, hi, ew, ey という語と、e か z の音で終わる語(機能語)、には基本的にアクセントを置かない(あえてアクセントを置くこともある)。

(4) “:” (または “r”) で終わる音は、単語の中での位置に関係なく、高い位置から始まり低い位置に抜けるように読む。語末は “h” の音のように、音を「はあ〜」と抜きながら読む。「ああ↗」のため息交じりにトーンを落とすイメージ。

連語

複数の語をつなげて読み、あたかも一つの語であるかのように扱うことがあります。これを LPN では連語と呼んでいます。連語では、語の切れ目に連語符’ (アポストロフィ) が置かれます。後で学ぶ多音語とは違い、連語で作られる言葉には文脈や話者の意思である程度自由な意味を持たせることができます。

このとき、アクセントはそれぞれの語の頭に置かれます。

例

pya (人) + cika (教える) = pya’cika (教える人、コーチ、教授、塾講師 etc...)
連語なのでそれぞれの語の頭を高く読む。

pyacika (職業としての学校の先生)
多音語なので一つ目の音だけ高く読む。

このように連語は比較的自由的な意味で使われるのに対し、多音語には明確に定義が与えられています。これらのより詳しい文法的な違いについては初級編では扱いません。

LPN の文字

ラテン文字表記と固有文字表記

二種類の文字

LPN の表記法は二通りあります。

-ラテン文字転写: ラテン文字を用いた表記で、SNS など、LPN の固有文字に対応していない環境で LPN を読み書きするために使います。

-固有文字表記: LPN 固有の文字(*sapyolwa:no*/サピョルワーノ)を用いた表記で、一文字が一音節(末音を除く)に対応しています。

以降は固有文字表記を *SPL*, ラテン転写を *LTT*, 日本語訳を *JPN* とし、特に理由がない限りカタカナで発音を表記することはありません。

ラテン-固有文字対応表

上音(子音)は以下のように記します。

h	p	s	t	c	l	k	n
(なし)	Φ	Δ	Ψ	⊕	Θ	κ	Ϟ

また、下音(母音)は次のようになります。

a	o	i	wa	wi	ya	yo
○	+	-	⊕	⊖	⊖	⊕

末音は以下の通りです。

m	z	f	q	:/r
⊖	κ	ω	⊖	˘

固有文字の使い方

基本 I

上音字は文中で単体で用いられるときは、**末尾に e** を付けて読みます。

SPL; Φ, Δ, Ψ, ⊕, Θ, κ, Ϟ

LTT; pe, se, te, ce, le, ke, ne

we や ye の音は、子音字の右肩にそれぞれ **+** または **-** を付けて読みます。

SPL; Φ⁺, Δ⁺, Ψ⁺, ⊕⁺, Θ⁺, κ⁺, Ϟ⁺

LTT; pwe, swe, twe, cye, lye, kye, nwe

同様に、下音字は文中で単体で用いられるときには、**頭に h** を付けて読みます。

SPL; ○, +, -, ⊕, ⊖, ⊖, ⊕

LTT; ha, ho, hi, hwa, hwi, hya, hyo

he, hwe, hye はそれぞれ ϙ, ϙ⁺, ϙ⁻ で表します。

ew, ey (エウ, エイ) は特殊な使い方をする音で、それぞれ ϙ⁺, ϙ⁻ で表します。

存在文

LPN の最も基本の文の形を知る

用語の説明

一部の用語は LPN 用に定義されており、一般的な言語学における定義とは少し異なった使い方をされるものもあるので注意しましょう！

語; 一音語、多音語、連語など、意味を持つ音の集まりのこと。

句; 一つまたは複数の語が集まって文法的な機能を持ったもの。

挨拶などの基本表現

ᄇ (lwa); やあ / ᄇᄃ (lwapo); こんにちは

ᄃᄃ (pwitwi); ありがとう

ᄀ (ko); はい / ᄁ (ni); いいえ

単語一つでも文になる

LPN では ᄃ (pe) とその派生の機能語 (ᄃ/ᄃ) を含まない文章を **存在文** と呼びます。

〈句 |〉 の形で表現され、「句がある/いる」という意味になります。

LPN で句は「言葉が集まって文法的な機能を持つもの」を指すよ。よくわからなくても LPN は話せるようになるから、難しかったら気にせず読み進めちゃおう

挨拶や「はい」などの返事も存在文にあたります。

例文

SPL; ᄇ!

LTT; lwa!

JPN; やあ

SPL; ᄃᄃ!

LTT; pwitwi!

JPN; ありがとう

SPL; ᄀ! ᄃ ᄃᄃ'ᄀᄃ |

LTT; ko! pa pye kyo'sotya |

JPN; うん。もう食べたよ。二つ目の文は ᄃ を含むので存在文ではない。

SPL; ᄃᄃᄃ |

LTT; twilo: |

JPN; 花だ/花がある。

借用語の使用

借用語を使うときのルール

基本の語彙・表現

꠆ (lwa) ㊦; やあ

꠆ꠗ (pwitwi) ㊦; ありがとう

꠆ (ko) ㊦; はい / ꠆ (ni) ㊦; いいえ

꠆ (ey) ㊦; (機能語) 借用語標示

꠆꠆ (nipa) ㊦; ごめん

꠆꠆꠆ (pwalwa) ㊦; またね、さようなら

借用語標示꠆ (ey)を用いた自由な借用

LPN ではあらゆる言語からあらゆる語を借用することができます。ただし、固有語(LPNN独自の語)と区別するために、語末に必ず꠆ (ey/エイ)を置きます。

ただし、一部の語は借用語を用いた代用が文法的に認められていません。「わたし꠆は꠆男꠆」などを認めてしまうと、もはやLPNの文である必要がなくなってしまうからです。必ず固有語で表現することが求められる語をLPNでは**必須語**と呼び、借用語で置き換えることができません。以降、必須語を紹介する際には横に㊦という表示を付けます。

例文

SPL; 鳥꠆ |

LTT; 鳥 ey |

JPN; 鳥だ/鳥がいる。

SPL; ꠗꠗ |

LTT; tyato: |

JPN; 鳥だ/鳥がいる。

固有語で表現できるものでも、必須語でなければ借用語で代用することができるよ。だから単語をたくさん覚えなくてもすぐにLPNを使えるようになるね！

SPL; ꠆꠆ 食べる꠆ ꠆ レストラン꠆ |

LTT; pa pye 食べる ey le レストラン ey |

JPN; レストランで食べた。

借用語をいくつも使って文章を作ることでもあります。動詞などは自由に活用した状態で借用することもできますが、辞書形で借用することが多いです。

LPN の語の成り立ち

(場所)+(学ぶ)=(学校)

用語

一音語; 一つの音節で作られる LPN の最も基本となる固有語。多くの言葉が一音語の単純な組み合わせで作られている。

多音語; ニつ以上の音節で構成される固有語。

接尾辞; 語の後ろに付いて意味を加える音。m や z などの接尾辞はそれぞれ特別な文法ルールに従う m 詞や z 詞を作る。

LPN 独自の言葉; 固有語

LPN では借用語を自由に使えますが、固有語だけでも基本的なコミュニケーションを取ることが可能です。

LPN のほとんどの語は、基本となる 54 の語と 56 の接尾辞の単純な組み合わせから作られています。例外的な意味を持つ組み合わせもあります。

これらの基本の 54 語(一音語)の一覧は「資料」ページから閲覧できます。言葉の規則性を先に知りたいという方は、まずそちらをご覧ください。

類推可能な多音語の例

𐄂 (so) 得る + 𐄂 (ka) 知識 = 𐄂𐄂 (soka) 学ぶ

𐄂 (co) もらう + 𐄂 (ka) 知識 = 𐄂𐄂 (coka) (人から) 学ぶ

𐄂 (la) 場所 + 𐄂𐄂 (coka) (人から) 学ぶ = 𐄂𐄂𐄂 (lacoka) 学校

𐄂 (ci) あげる + 𐄂 (ka) 知識 = 𐄂𐄂 (cika) 教える

𐄂 (pya) 人 + 𐄂𐄂 (cika) 教える = 𐄂𐄂𐄂 (pyacika) 先生

𐄂 (co) もらう + 𐄂 (nwi) 交換 = 𐄂𐄂 (conwi) 買う

𐄂 (ci) あげる + 𐄂 (nwi) 交換 = 𐄂𐄂 (cinwi) 売る

𐄂 (pyo) 言葉 + 𐄂 (lwa:) (接)視覚に関する = 𐄂𐄂 (pyolwa:) 読み書きでのやりとり

𐄂 (pyo) 言葉 + 𐄂 (swa:) (接)相互の = 𐄂𐄂 (pyoswa:) 会話

動作文の基本

動作を表す語を含む文

動作文

「行く」や「買う」など、ものや人の動きを説明する語の前には必ず Φ (pe/プとべの間の音) を付けます。 Φ を動作標示と呼びます。

〈(動作の主体) Φ (動作の内容) |〉の形の文を**動作文**と呼び、動作の主体を表す句を主体句(S), Φ で始まる動作を表す句を動作句(V)と呼びます。

「(動作の主体)が(動作の内容)する/している」などの意味になります。

主体句と動作句の語順の入れ替えはできないので注意しましょう。

基本の語彙・表現

Φ (pa) $\text{\textcircled{必}}$; 一人称代名詞/私

Φ_K (pyaz); ~さん(敬称) 人名の後につく

Φ (pe) $\text{\textcircled{必}}$; 動作標示(現在時制)

$\Phi_{\text{ソ}}$ (sotya); 食べる、食事をする

$\Phi_{\text{ソ}}$ (soka); 学ぶ、学習する、勉強する

$\Phi_{\text{ラ}}$ (lacoka); 学校に行く

$\Phi_{\text{ラ}}$ (lacwi); 職場に行く

$\Phi_{\text{ラ}}$ (laki); 帰宅する、家に向かう

例文

SPL; $\Phi \Phi_{\text{ソ}}$ |

LTT; pa pe sotya |

JPN; 私はごはんを食べています。

SPL; $\Phi \Phi_{\text{ソ}}$ 食べる $\text{\textcircled{レ}}$ |

LTT; pa pe 食べる ey |

JPN; 私はごはんを食べています。

動作を借用語で表す場合にも同じルールが適用されるんだね

SPL; $\Phi \Phi_{\text{ラ}}$ 毎日 $\text{\textcircled{レ}}$ |

LTT; pa pe lacwi ce 毎日 ey |

JPN; 私は毎日仕事に行きます。

SPL; さくら $\text{\textcircled{レ}}$ $\Phi_K \Phi_{\text{ソ}}$ $\text{\textcircled{大}}$ |

LTT; さくら ey pyaz pe soka cehya |

JPN; さくらは今、勉強しています。

「～を」を表す se

直接目的語を含む動作文

直接目的語標示; se

LPN では「りんごを食べる」のような文を作るとき、「～を」に当たる部分を Δ (se/スとセの間の音) で表します。 Δ は(直接)目的語標示または対象標示と呼ばれ、動作の対象となる語の前に置かれます。

〈(動作の主体) Φ (動作の内容) Δ (動作の対象) | 〉の Δ で始まる句を対象句(O)と呼び、文全体は「(動作の主体)が(動作の対象)を(動作の内容)する/している」などの意味になります。

語順の入れ替えはできないので注意しましょう。

基本の語彙・表現

꠆ꠇ (pwaso); (Δ を) 探す、求める、欲しがる

꠆ꠈ (pyato); 親

꠆ꠉ (pyali); 子ども

꠆ꠊꠋꠌ (sakyapyolwa:); 本

꠆ꠍ (sotya); (Δ を) 食べる

꠆ꠎ (soka); (Δ を) 学ぶ、(Δ を) 勉強する

Δ (se) $\textcircled{\times}$; 対象標示

꠆ꠏꠐ (caco:); (Δ が) 好き

꠆ꠑꠒꠓ (lwipyono) $\textcircled{\times}$; lwipyono, LPN, LPN を話す

例文

SPL; ꠆꠆꠆ꠇꠈꠉꠊꠋ |

LTT; pa pe **pwaso se** ꠋꠌ ey |

JPN; 鍵を探しています。

SPL; ꠆ꠉ꠆ꠇꠈꠉꠊꠋꠌꠍꠎꠏꠐ |

LTT; **pyali pe sotya se** ꠋꠌꠍꠎꠏꠐ ey |

JPN; 息子はりんごを食べています。

「わたしの」とわざわざ言わなくても、文脈や状況から明かなときは〈꠆ꠉ〉というだけで「自分の子ども」の意味で使うこともあるよ。

SPL; ꠆꠆ꠇꠈꠉꠊꠋꠌꠍꠎꠏꠐꠑꠒꠓ |

LTT; pa pe **soka se** lwipyono |

JPN; LPNについて学んでいます。訳は必ずしも「～を」になるわけじゃないから注意!

SPL; ꠋꠌꠍꠎꠏꠐꠑꠒꠓ ꠆ꠇꠈ ꠆ꠉ꠆ꠇꠈꠉꠊꠋꠌꠍꠎꠏꠐ |

LTT; ꠋꠌꠍꠎꠏꠐ ey pyaz pe **caco: se** sakyapyolwa: |

JPN; けいたさんは本が好きです。

基本の語彙・表現

ᄃᆞᆯᆫᆯᆫ (sakyapyolwa:); 本を読む、読書する

ᄃᆯᆫᆯᆫ (sopyolwa:); (Δを) 読む

ᄃᆞ (la); 場所、移動する、(ᄃへ) 行く

ᄃᆞᆯᆫᆯᆫ (lacoka); 学校

ᄃᆯᆫᆯᆫ (lwipyo); 言語、(Δ言語を) 話す

繰り返しの回避

LPNは性質上繰り返して同じ音を含むが文中に何度も出てくる場合があります。例えば、「(ある言語)を話す」を意味するLPNの語はᄃᆯᆫᆯᆫですが、文字通り「LPNを話す」と言おうとすると、〈ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫ〉となってしまいます。これは、LPNが「わたしたちの言語」という意味で、二つの語が同じ語根ᄃᆯᆫᆯᆫを共有しているために起こります。

このような繰り返しの回避するため、LPNは対象の語そのものを(予測可能な範囲で)動作の表現そのものとして使うことがあります。例えば、言語は一般的に「話す」ものなので、〈ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫ〉だけで「LPNを話す」という意味になります。

例

SPL; ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆞᆯᆫᆯᆫ |

LTT; pa pe sakyapyolwa: |

JPN; 私は本を読んでいます。

くどくなるので、わざわざ 〈ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆯᆫᆯᆫ〉とは言わない。

SPL; ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆞᆯᆫᆯᆫ |

LTT; pa pe 英語 ey |

JPN; 私は英語を話します。

借用語にも似たルールを適用できるものの、固有語での音の繰り返し回避が本来の目的なので無理に行う必要はない。

SPL; ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆞᆯᆫᆯᆫ |

LTT; pa pe lacoka |

JPN; 私は学校に行く。

わざわざ 〈ᄃᆯᆫᆯᆫᄃᆞᆯᆫᆯᆫᄃᆞᆯᆫᆯᆫ〉とは言わない。

時制

今と過去と未来の表現

LPN の時制

LPN の動作にも「現在形」のような時制に相当する概念があり、それぞれの時制は以下のように定義されます。

-未完形(現在形); すでに起こった動作で、まだ完了していないもの。

-未発形(未来形); まだ発生していない、または現実には発生していない動作。

-完了形(過去形); すでに完了した動作。

それぞれ LPN 独自の呼称(未完形)があるものの、一般的な自然言語と呼び名を合わせて「現在形」などと呼ぶことが多いです。

それぞれ Φ (pe) / Φ^* (pwe) / Φ^- (pye) という表示を使います。

基本の語彙・表現

Φ (pe) ㊦; 動作標示(現在)

Φ^* (pwe) ㊦; 動作標示(未来)

プエのような発音

Φ^- (pye) ㊦; 動作標示(過去)

ピエのような発音

㊦ (twa); (㊦'〇 の形で) 〇をしている最中

㊦ (cwi); 仕事、(㊦ ㊦ の形で) 働く

例文

SPL; Φ Φ ㊦'㊦ |

LTT; pa pe twa'cwi |

JPN; 今仕事をしているところだ。㊦なので、まだ仕事は終わっていない。

SPL; Φ Φ ㊦'㊦ |

LTT; pa pye soka |

JPN; 勉強した/勉強していた。

㊦なので、もう勉強は終わっていて、今は何か別のことをしている。

SPL; Φ Φ^* ㊦ |

LTT; pa pwe cwi |

JPN; (これから)仕事をする。㊦なので、まだ仕事を始めていない。

補足; Φ^* は「現実はまだ起きていない」動作に使われるので、仮定の話(一般的に仮定法/接続法と呼ばれる語法)でも使いますが、少し発展的な内容になってしまうのでここでは説明を割愛します。初級編後半で改めて触れます。

時点を表す機能語 ce

「いつ」を説明しよう！

動作が起こった時間を表す標示 ce

ここまで、LPN では語の機能を Φ や Δ という機能語で説明することを学びました。同じように、ある動作が起こった時間を説明する言葉の前には時間標示 **ㄸ** (**ce**/ツとツェの間のような音)が置かれます。語順は

(主語) Φ (動作) Δ (対象) **ㄸ** (時間)

の順になります。

基本の語彙・表現

ㄸ (**ce**) ㄸ; 時間標示(時点)

ㄸ \rightarrow (**cehya**); 今

ㄸ \rightarrow ㄸ (**cahyakwa:**); 今日

ㄸ \rightarrow ㄸ (**cehyakwa:**); 今日

ce cahyakwa: の省略

〈ㄸ ㄸ-〉 (**ce ca-**) の形は一般的に 〈ㄸ〉 と省略されます。

ㄸ ㄸ (**cekwa:**); 今日 より口語的な言い方

ㄸ ㄸ ㄸ (**capwakwa:**); 明日

ㄸ ㄸ ㄸ (**cakyokwa:**); 昨日

例文

SPL; Φ Φ ㄸ Δ Φ ㄸ \rightarrow ㄸ ㄸ |

LTT; pa pye lwa se pyacika **cekyokwa:** |

JPN; 昨日(私の)先生に会った。

SPL; Φ Φ ㄸ ㄸ \rightarrow ㄸ ㄸ |

LTT; pa pwe lacoka **cepwakwa:** |

JPN; 明日は学校に行く。

SPL; Φ Φ ㄸ Δ 宿題 \rightarrow ㄸ \rightarrow |

LTT; pa pye kyo se 宿題 ey **cehya** |

JPN; 私は今宿題を終わらせた。

SPL; Φ Φ ㄸ ㄸ ㄸ \rightarrow ㄸ ㄸ |

LTT; pa pye sotya'caha: **celo** |

JPN; ちょうど朝ごはんを食べるところだよ。

場所を表す機能語 le

「どこで」を説明しよう！

動作が起こった場所を表す標示 le

ある動作が起こった場所を説明する言葉の前には場所標示 \ominus (le/ルとレの間のよ
うな音)が置かれます。語順は

(主語) Φ (動作) Δ (対象) \ast (時間) \ominus (場所)

の順になります。語順を覚えるのが難しいと思った方は、それぞれの標示の頭文字 (p, s, c, l) を取って「パスカル(PaSCaL)」と覚えましょう。

基本の語彙・表現

\ominus (le) $\text{\textcircled{\small \text{必}}}$; 場所標示(地点)

$\ominus \curvearrowright$ (lehya); ここ

$\ominus \rightarrow$ (lehyo); そこ

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{家}}}$ (laki); 家 (建物ではなく、場所)

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{家}}}$ (leki); 家で

le laki の省略

$\langle \ominus \text{\textcircled{\small \text{家}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} \rangle$ (le la-) の形は一般的に $\langle \ominus \rangle$ と省略されます。

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{食}}}$ (lasotya); レストラン、食堂

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{学}}}$ (lacoka); 学校

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{売}}}$ (laconwi); 売店 LPN では「買う場所」の意

$\ominus \text{\textcircled{\small \text{病}}}$ (lakikonya); 病院

例文

SPL; $\Phi \Phi \text{\textcircled{\small \text{学}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} |$

LTT; pa pe soka leki |

JPN; 家で勉強する。

SPL; $\Phi \Phi \text{\textcircled{\small \text{学}}} \text{\textcircled{\small \text{学}}} \Delta \text{\textcircled{\small \text{数}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} |$

LTT; pa pe soka se 数学 ey le ドイツ ey |

JPN; ドイツで数学を学んでいる。

SPL; $\Phi \Phi \text{\textcircled{\small \text{食}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} \text{\textcircled{\small \text{家}}} |$

LTT; pa pwe sotya lehya |

JPN; ここで食事をする。

修飾標示 ho

機能語 ho の使い方

LPN は後置修飾

「美しい」「素早い」など、名詞や動詞を説明する言葉のことを修飾語と言います。例えば、日本語では「美しい花」というように、「花」を説明する「美しい」が名詞の前に置かれますが、LPN の修飾は後置修飾といって、修飾語が後ろに置かれます。修飾語の前には修飾語標示 + (ho/ホ)が置かれます。

(修飾される語) +(修飾語)

基本の語彙・表現

+ (ho) ㊦; 修飾標示(陽)

ㄥ (hya) ㊦; これ、(ㄥ'〇の形で) この

ㄥ (hyo) ㊦; あれ/それ/彼/彼女、(ㄥ'〇の形で)
あの/その

ㄥ (hyopya) ; その人/彼/彼女 (人であることを強調したい時に使う)

ㄥ (tolo:); 木

ㄥ (twilo:); 花

ㄥ (cwila:); 走る

例文

LPN には品詞がないので、「形容詞」「副詞」のような区別はなく、修飾語はすべて共通して+で標識されます。

SPL; ㄥ + 美しい |

LTT; twilo: ho 美しい ey |

JPN; 美しい花がある。形容詞的な修飾

SPL; ㄥ + 高い |

LTT; hyo'tolo: ho たかい ey |

JPN; その木は 背が高い。

SPL; ㄥ + 速い |

LTT; hyopya pe cwila: ho 速い ey |

JPN; あの人は走るのが 速い。

修飾標示 hi

機能語 ho と hi の使い分け

陽修飾と陰修飾

LPN の固有語を修飾に使う際には、意味に応じて **+** とその対になる **-** (hi/ヒ) を使い分ける必要があります。+ は何かがある状態を表し、- は何かが無い、足りていない状態を表します。簡単に言えば「速い」と「遅い」のような対の関係を、LPN では語彙ではなく **+/-** の使い分けで表現します。

(修飾される語) +/- (修飾語)

借用語を用いた修飾では基本的に **+** を用います。また、その性質から **+** を陽修飾標示、**-** を陰修飾標示と呼ぶことがあります。

基本の語彙・表現

+ (ho) ㊦; 修飾標示(陽)

- (hi) ㊧; 修飾標示(陰)

ᄇ (pya); 人

ᄃᄃ (totyo:); 高さ

ᄃᄃ (twaca); 年季のある、年を取った

ᄃᄃ (catyo:); 早さ

ᄃ (cwi); 仕事、働き、働く

例文

SPL; ᄇ ᄇ + ᄃᄃ |

LTT; hyo'pya ho totyo: |

JPN; あの人は背が高い。高さがある=背が高い

SPL; ᄇ ᄇ - ᄃᄃ |

LTT; hyo'pya hi totyo: |

JPN; あの人は背が低い。高さが足りない=背が低い

SPL; ᄇ ᄇ ᄃᄃ ᄃᄃ ᄃᄃ ᄃᄃ - ᄃᄃ ᄃᄃ ᄃᄃ |

LTT; pa pye sotya'caha: hihatyo: cehyakwa: |

JPN; 今日は朝ごはんを遅くに食べた。ランチだったのかな

SPL; ᄇ ᄇ - ᄃᄃ ᄃᄃ ᄃᄃ ᄃᄃ + ᄃᄃ ᄃᄃ |

LTT; hyopya hi twaca lyoz pe cwi ho twaca |

JPN; 彼は若いけど仕事の経験は豊富だね。

ᄃᄃ は動作に付くと「経験豊富な/経験の足りない」の意味でも使われるよ。効率の良さはその動作をどれだけ反復したかに表れるよね。良い歳の取り方をしたいなあ！

ㄸㅈ (cwityo:); 速さ、効率の良さ

ㄹㅈ (latyo:); 大きさ

ㄹㅈ (lityo:); 深さ

ㄹㅇ (lila:); 潜る

ㄹㅈ (lwaco:); 見る

ㅇ (na); (ㅇ'Oの形で) Oできる

SPL; ㅇㅇㅇㅇ'ㅇㅇ+ㄸㅈ |

LTT; pa ne pe na'lila: ho cwityo: |

JPN; 私は速く走れない。

SPL; ㅇㅇㅇㅇ-ㄸㅈ |

LTT; pa pe lila: hi cwityo: |

JPN; 私は走るのが遅い。

SPL; ㅇㅇ+ㄹㅈ |

LTT; lila: ho lityo: |

JPN; 深く潜る。

SPL; ㅇㅇㅇㅇ△ㅇㅇ+ㅇㅇㅇㅇ |

LTT; pa pye lwaco: se twilo: ho latyo: cekyokwa: |

JPN; 昨日大きな花を見た。ラフレシアかな

良い/悪い

単に何かが良い/悪いという主観的な意見を述べる場合、

「良い」は+ㄸ (hoz/ホジ)、「悪い」は-ㄸ (hiz/ヒジ)と言います。

SPL; ㅇㅇㅇㅇ-ㄸ |

LTT; pa pe pyocyo:twi: hiz |

JPN; 私は歌を歌うのが下手だ。

SPL; ㅇ' 와인 ㅇ +ㄸ |

LTT; hya' 와인 ey hoz |

JPN; このワインは美味しい。

+ㄸ (hoz) (必); 良い、良さ、良く、上手い

-ㄸ (hiz) (必); 悪い、悪さ、悪く、下手な

ㅇㅇㅇ (pyocyo:twi:); 歌、歌う

所有を表す機能語 ke

日本語の「～の」と語順が逆転することに注意

所有や所属を表す ke

「私の父」のように、二つのものの関係を表すときに LPN では帰属標示 \wedge (ke/クとケの間の音) を用います。〈A \wedge B〉と言うとき、日本語の「の」とは異なり、A が B に所属する(B の A) の意味になるので注意が必要です。

(もの) \wedge (所属先)

基本の語彙・表現

Φ (po) $\text{\textcircled{必}}$; 二人称代名詞、あなた

\wedge (ke) $\text{\textcircled{必}}$; 所属標示

$\Phi\Psi$ (pyato); 親 口語では Ψ と略されることが多い

$\Phi\Xi$ (pyali); 子 口語では Ξ と略されることが多い

$\Phi\text{\textcircled{必}}\Psi$ (pyacata:); 兄弟姉妹

口語では $\Phi\text{\textcircled{必}}$ と略されることが多い

$\Phi\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ (pyacika); 先生

$\text{\textcircled{必}}'\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ (cwi'lacoka); 宿題、学校の課題

$\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ (kyolo); ($\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}'\text{\textcircled{必}}$ の形で) すでに $\text{\textcircled{必}}$ した

例文

SPL; $\Phi\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}\Delta\Psi\wedge\Phi\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ |

LTT; pa pye lwa se to ke po cekyokwa: |

JPN; 私は昨日あなたの親に会った。

SPL; $\Phi\text{\textcircled{必}}\wedge\Phi\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}\Delta\text{\textcircled{必}}'\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ |

LTT; pyaca ke pa pe kyolo se cwi'lacoka |

JPN; 兄はすでに宿題を終わらせている。

SPL; $\Phi\text{\textcircled{必}}\wedge\Phi\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}\Delta\text{\textcircled{必}}'\text{\textcircled{必}}\text{\textcircled{必}}$ |

LTT; pyaca ke pa pe kyolo se cwi'lacoka |

JPN; 兄はすでに宿題を終わらせている。

+/-とㄨの語順

+/-とㄨは同じ区分の中ではどちらが先に来ても意味は変わりません。ただし、一般的にはㄨが先に来ることが多いです。

少し複雑な LPN の文構造の理解を要するので、区分について初級では扱わないよ。初級ではなるべく感覚的、直感的に、用例を通じて LPN を学ぶことを目標にしてるよ。今は「基本的に+とㄨの語順はあまり関係ない」とだけ理解しておこう。

SPL; ㄹㄨ ㄱ + ㅍㅍ |

LTT; li ke pa ho totyo: |

JPN; 娘は背が高い。 私の背が高いわけではない

SPL; ㄹ + ㅍㅍ ㄨ ㄱ |

LTT; li ho totyo: ke pa |

JPN; 娘は背が高い。 意味は変わらないが、あまり使われない

ㄨ ㄱ の省略

文脈から明かな場合は、ㄨ ㄱ は省略されることがあります。特に、ㄨ ㄱ は省略されがちです。

SPL; ㄹ ㄱ ㄱ ㅍ ㅍ |

LTT; li pe lacoka |

JPN; 私の子どもは学校へ通っています。

発展: 文脈から「自分の子」か「一般に子ども」かが不明瞭で、「一般に」をはっきりさせる必要がある場合、語の後ろに ㅈ ㄱ ㄱ をつけることで区別します。

SPL; ㄹ ㅈ ㄱ ㄱ ㄱ ㅍ ㅍ |

LTT; li koz he pe lacoka |

JPN; 子どもというのは、学校へ通うものだ。

疑問表現 I; nye

「はい」か「いいえ」でお答えください

「はい」「いいえ」で答えられる質問

「～ですか？」のように、相手に質問をする文章を作るためには、**質問をしたい内容の直前**、または、**質問に関する句の機能語の直後**に疑問標示 **ᄇ** (nye/ニエ)を挿入します。特に強調したい箇所がない場合は、**ᄇ標示の直後**に挿入します。このような疑問の文を**第一種疑問文**と呼びます。語尾は上げません。

否定標示と同じように、無理に理屈で考えようとせず、例文を通じて **ᄇ** の位置を感覚で学んでいきましょう。

基本の語彙・表現

ᄇ (nye) **ᄇ**; 疑問標示

ᄇᄃ (pyoz); 間投詞、えっ、あっ

例文

SPL; ᄇ ᄇ ᄇᄃᄃᄃᄃᄃᄃ ?

LTT; po pe **nye** lwipyono ?

JPN; ルイピョノを話せますか。

SPL; ᄇ ᄇ ᄇᄃᄃᄃᄃ ?

LTT; po pye **nye** sotya ?

JPN; ご飯は食べましたか。

SPL; ᄇᄃ ᄇ ᄇᄃᄃᄃᄃ ᄇᄃᄃ ?

LTT; **pyoz** po pye sotya se **nye** hyo ?

JPN; え、それ食べちゃったんですか。

SPL; ᄇᄃ ᄇ ᄇᄃᄃᄃᄃ ᄇᄃᄃ ?

LTT; **nye** po pye sotya se hyo ?

JPN; あなたがそれを食べたんですか。

ꠘꠘ (popa); 私とあなた、私たち(自分と話し相手を含む)

SPL; ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ |

LTT; popa pwe lwa le nyez |

JPN; どこで待ち合わせにしますか。

疑問文では、本来は〈?〉を使う必要はなく、上の例のように<|>で文末を示すことができますが、見た目のわかりやすさを上げるために〈?〉を使うことが多いです。

SPL; ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ !

LTT; nyez pye hya !

JPN; これをやったのは誰だ!

SPL; ꠘꠘ ꠘꠘ ꠘꠘ |

LTT; hyo pya ho nyez |

JPN; 彼ってどんな人?

数に関する表現 I

LPN の数え方は単純明快

1, 2, 3 と 123

LPN でも十進法で数えます。数の構成は非常に単純で、例えば、1 は Φ_{Δ} (pam/パ Δ)、2 は Φ_{Δ} (pom/ポ Δ) ですが、12 は $\Phi \Phi_{\Delta}$ (papom/パポ Δ) となります。9 は Ψ_{Δ} (tim/ティ Δ) ですので、999 は $\Psi \Psi \Psi_{\Delta}$ (tititim/ティティティ Δ) です。

つまり、0~9 の表現を覚えてしまえば、事実上どんなに大きな数も表すことができるようになります！

厳密には非負整数ですがこれは数学の教科書ではないので細かいことは置いておきましょう。

基本の数表現

O_{Δ} (pam) $\text{\textcircled{必}}$; 0

Φ_{Δ} (pam) $\text{\textcircled{必}}$; 1

Φ_{Δ} (pom) $\text{\textcircled{必}}$; 2

Φ_{Δ} (pim) $\text{\textcircled{必}}$; 3

Δ_{Δ} (sam) $\text{\textcircled{必}}$; 4

Δ_{Δ} (som) $\text{\textcircled{必}}$; 5

Δ_{Δ} (sim) $\text{\textcircled{必}}$; 6

Ψ_{Δ} (tam) $\text{\textcircled{必}}$; 7

Ψ_{Δ} (tom) $\text{\textcircled{必}}$; 8

数の表現の例

0~9 まではそれぞれ、 O_{Δ} 、 Φ_{Δ} 、 Φ_{Δ} 、...、 Ψ_{Δ} と数えます。

10 以上の数はそれぞれの桁の数を読み、最後に Δ (m) の音を加えます。たとえば 123 は $\langle \Phi \Phi \Psi_{\Delta} \rangle$ です。

慣れると日常生活でも使いやすく、桁数の多い数を覚えるときにかなり役立ちます... 私だけかもしれないですが。

10 は単にそれぞれの桁を読んで $\langle \Phi O_{\Delta} \rangle$ と読むこともありますが、代わりに $\langle \Delta_{\Delta} \rangle$ を使うことが多いです。同様に、100 と 1000 にはそれぞれ $\langle \Delta_{\Delta} \rangle$ 、 $\langle \Psi \Delta_{\Delta} \rangle$ という名前がついています。

以下の例を通じてより正確な使い方を理解しましょう。

17 = $\Phi \Psi_{\Delta}$ (1= Φ_{Δ} , 7= Ψ_{Δ})

30 = $\Phi \Delta_{\Delta}$ (3= Φ_{Δ} , 10= Δ_{Δ}) ΦO_{Δ} と言うときもある

95 = $\Psi \Delta_{\Delta}$ (9= Ψ_{Δ} , 5= Δ_{Δ}) $\Psi \Delta_{\Delta}$ とは言わないので注意

400 = $\Delta_{\Delta} \Delta_{\Delta}$ (4= Δ_{Δ} , 100= Δ_{Δ}) $\Delta_{\Delta} O_{\Delta}$ と言うときもある

602 = $\Delta O \Phi_{\Delta}$ (6= Δ_{Δ} , 0= O_{Δ} , 2= Φ_{Δ}) $\Delta \Delta \Phi_{\Delta}$ とは言わないので注意

8000 = $\Psi \Delta_{\Delta}$ (8= Ψ_{Δ} , 1000= Δ_{Δ}) $\Psi O O O_{\Delta}$ と言うときもある

ㅅ (tim) ㉞; 9

창 (cam) ㉞; 10

창 (com) ㉞; 100

츠 (cim) ㉞; 1000

ㄴ (f/fe); 二つ以上の等位の語を一つの語として連結するとき用いる。

츠 (cwim); べき乗、(〇츠〇の形で) 〇の〇乗

97,000 = ㅅㅅ츠 ㅅㅅ〇〇〇

4053 = ㅅ〇ㅅ ㅅ ㅅ츠ㅅ츠

987,654,321 = ㅅㅅㅅㅅㅅㅅㅅㅅㅅ

上の例のように数が大きくなる場合は、3桁ごとにアクセントを付けて読むことが多い。

100万より大きい数の表現は、上のようにそれぞれの桁を読むか、借用語を用いて表現する。また、LPN 中級編で学ぶ高度な数の表現を学ぶとより自由な数の表現が LPN だけで可能になる。

例; 14 億

ㅅㅅ 億 借用語を用いた表現

ㅅㅅ〇〇〇〇〇〇〇〇 可能だが、普通これだけ大きな桁を桁数だけで読むことはしない

ㅅㅅ billion ㅅㅅ츠 million 借用語は日本語でなくても良い

ㅅ츠츠츠 ㅅㅅ츠츠 100万を〈츠츠〉、10億を〈츠츠츠〉とする慣用表現もある

ㅅ츠ㅅㅅ츠츠 100万を〈츠ㅅ〉、10億を〈츠ㅅ〉とする言い方(より一般的)

ㅅ츠츠ㅅㅅ츠츠츠 より科学的/数学的な表現〈츠츠ㅅ〉で「千の二乗」の意味

数に関する表現 III

「いくつ」などの数の尋ね方

いくつを意味する nyem

数について質問をするときには、本来数詞が入る場所に **ᄃᆞᆫ** (nyem/ニエム)を入れます。「何番目」のような場合も同様に、本来数を表す音が入る場所に **ᄃᆞᆫ**を入れて読みます。

たとえば、何番目は <ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ>、何回は <ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ>、何周目は <ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ> です。

基本の語彙・表現

ᄃᆞᆫ (nyem) (必); いくつ

ᄃᆞᆫ (twaca); 古い、経験がある

ᄃᆞᆫ (twacwa:); 年

ᄃᆞᆫ (twacacwa:); ~歳の

ᄃᆞᆫ (lalwipyakwa:); (場所としての)国、国土

ᄃᆞᆫ (lakwa:); (口語で) 国

ᄃᆞᆫ (lakwa:pi); 外国、他の国

文例

SPL; ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ |

LTT; po ho nyem twacacwa: |

JPN; 何歳ですか。

SPL; ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ |

LTT; po pye nyelam lakwa:pi |

JPN; 何度外国に行ったことがありますか。

SPL; ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ ᄃᆞᆫ ?

LTT; nyecwam cwila: ?

JPN; 何周走った? <ᄃᆞᆫ...> と訊くよりも口語的

発展: あえて主語を省くことで、口語的なニュアンスを出せるだけでなく、口調や主張を和らげる役割もあります。主語の省略によるニュアンスの変化は初級では扱いません。まずは初級編で基本の構文をしっかり身に付けましょう。

連語

語と語を組み合わせて自由に表現を作る

連語と造語

LPN では二つ以上の語を組み合わせて新たな表現を作ることができ、これを連語と呼びます。連語では語と語の境目になる箇所に連語符〈'〉を挿入します。アクセントはそのままです。

造語とは違い、連語はあくまでも複数の語の組み合わせを一語であるかのように扱う方法です。連語で作られる表現の意味は、元となる語の意味を極端に逸脱しない限り、話者がある程度自由に決めることができます。

基本の語彙・表現

ᄇᆞᆯ (sala:); 乗り物、移動手段、(主に)車

ᄇᆞᆯ (nwika:); 価値

連語の作り方と意味の考え方

基本的に連語は次のような状況で使われます。

- + や ◯ などの他の機能語では上手く意味が表現できない修飾関係(エスペラントの ja のような万能な修飾と捉えても良い)
- 「美しい人」ではなく「美女」のようにそれ自体を一つの語であるかのように扱いたいとき
- 助動詞のように動作同士の意味を複合して使いたいとき

連語の修飾関係は LPN の修飾の基本である後置修飾に則り、後ろに説明を続けるように連結します。例えば、「高い車」は〈ᄇᆞᆯ + ᄇᆞᆯ〉であるのに対し、「高級車」は〈ᄇᆞᆯ'ᄇᆞᆯ〉となります。わからないときは、「+ や △、* などの機能語が〈'〉で省略されている」と考えるといいかもしれません。

方向付き機能語

「～へ」「～から」 we/ye 変換

向かう先や来た方向を説明する機能語

一部の機能語は **-e** の音を **-we/-ye** に変えることで向かう先や来た方向を表すことができます。**-we/-ye** で終わる機能語を**方向付き**または**有方向機能語**と呼びます。**ㄹ**などと同じように右肩に**+/ー**を付けることで **we/ye** を表します。

例えば、「家で」は **<ㄹ ㄱ ㄴ>** ですが、「家へ」は **<ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ>**、「家から」は **<ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ>** となります。**<ㄹ ㄱ ㄴ>** を **<ㄹ ㄴ>** と省略できたように、**<ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ>** もそれぞれ **<ㄹ ㄴ ㄷ>** と省略されることが多いです。

-we の音は「～へ(向かう先)」、**-ye** の音は「～から(来た方向)」を表します。

基本の語彙・表現

ㄷ (cwe) ㉟; (時間) ~まで

ㄷ (cye) ㉟; (時間) ~から

ㄹ (lwe) ㉟; (場所) ~まで

ㄹ (lye) ㉟; (場所) ~から

ㄷ (cwa); 繰り返す、反復

ㄷ (kila:); もと居た場所に戻る

ㄷ (nwa); 必要、必要性、～する必要がある

例文

SPL; ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ |

LTT; pa pye lila: lwecoka |

JPN; 学校まで歩いた。

SPL; ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ |

LTT; pa pye twa'cwi cyeha: |

JPN; 朝からずっと働きっぱなしだよ。

SPL; ㄷ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ |

LTT; ㄷ ey pyaz pye cwa'kila: lyeki lwecwi |

JPN; 林さんは家と職場を行ったり来たりしていた。

二つ同時に使うときは始点(ye)を先に述べることが多い

SPL; ㄷ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ |

LTT; po pe nwa'kyo se hyo cwehyani: |

JPN; それ、今夜までに終わらせないといけないよ。

所有の方向

kwe と kye の使い方

所有の移動

所有を表す機能語 ㄷ にも -we/-ye 形があります。

ㄷ^* (kwe/クエ) はものをあげる対象となる語の前に来て、 ㄷ (kye/キエ) はものをくれた相手を表す語の前に来ます。

$\text{ㄷ}^*/\text{ㄷ}$ は位置によって若干ニュアンスが変わることがあり、動作の直後(Φ句内)に付けると「動作をしてあげた/もらった対象」、目的語の直後(Δ句内)で使うと「ものの移動先」を表すこととなります。

初めはあまり理屈にこだわらず、下の例文を通じて学びましょう。

基本の語彙・表現

ㄷ^* (kwe) ㉟; 所有の移動先、(あげる相手)~に

ㄷ (kye) ㉟; 所有の移動元、(もらった相手)~から

ㄷ (twi); 助ける、手伝う

ㄷ (co); もらう

ㄷ (ci); あげる

例文

SPL; $\Phi \text{ㄷ}^* \Delta \text{ㄷ} \text{ㄷ}^* |$

LTT; pa pye **co** se hya **kye to** |

JPN; 私はこれを親からもらった。

SPL; $\Phi \text{ㄷ}^* \Delta \text{ㄷ} \text{ㄷ} |$

LTT; pa pwe **ci** se hyo **kwe li** |

JPN; 私はそれを(自分の)子どもにあげる。

SPL; $\Phi \text{ㄷ}^* \Delta \text{ㄷ} \text{ㄷ} \text{ㄷ} ?$

LTT; po pye **co** se hyo **kye nyez** ?

JPN; それ誰にもらったの。

SPL; $\Phi \text{ㄷ} \text{ㄷ} \text{ㄷ} |$

LTT; pa pye **twi** **kwe hyo** |

JPN; 彼を手伝ってあげた。「助ける」という動作そのものを誰かに与えるイメージ

he nye); (語末に置いて) 付加疑問、～なの？

poz); 呼びかけ、ねえ、呼格

pwasolo); 待つ、待っている

pwiz); (O pwiz) O様(敬称)、(単独で文頭に置き) ~ください

pyaz); (O pyaz) Oさん、君

sanwilwipyo); 翻訳機

cipyolwa:); 書く

cyaz); (cyaz O) Oを用いて

lo); 来る、現れる

nwiz); (A nwiz Bの形で) Bの代わりにA

SPL; pwiz pwiz pwiz pwiz pwiz ?

LTT; poz pwe nye hya nwiz hyo ?

JPN; ねえ、その代わりにこっちやってくれない？

相手に呼びかけるだけの時は <pwiz pwiz> とは言わず、単に <pwiz> という。

SPL; pwiz pwiz pwiz ? pwiz pwiz pwiz |

LTT; pwiz ey poz pwe nye hya ? pa nwiz pwe hyo |

JPN; ねえ酒井、こっちやってくれない？それは私が代わりにやるから。

このように pwiz を単独で使うこともできる。<pwiz pwiz> の (pwiz) の部分が文脈から明かなので省略されていると考えても良い。

SPL; pwiz pwiz pwiz pwiz pwiz pwiz pwiz pwiz ?

LTT; po pye cipyolwa: ne cyaz sanwilwipyo se hya he nye ?

JPN; 翻訳機使わないでこれ書いたの？ 否定する場合は、x 詞の直前に se を置く。

SPL; pwiz pwiz pwiz |

LTT; pwiz pwiz pwiz pwiz |

JPN; ここでお待ちください。

SPL; pwiz pwiz pwiz |

LTT; pwiz ey pwiz pwiz pwiz |

JPN; 田淵さまがいらっしゃいました/お見えになりました。

より深い敬意を表すために、<pwiz pwiz> を <pwiz pwiz pwiz> としても良いが、<pwiz> で十分に敬意が伝わるのであえて重ねる必要はない。特に、本人に対してではなく第三者に誰かが来たことを伝達するのにわざわざ pwiz を重ねるのは少しオーバーに感じる。

「～は...です」

koz/niz と he の使い方

「これはペンです」「これはペンではありません」

英語学習の過程で話題にされがちな “This is a pen” のように、「A は B です」という表現は多くの言語で最初に学ぶものだと思います。

LPN の場合はこの表現の扱いが他の言語よりも少しだけややこしい部分があるため、あえて前半では扱いませんでした。ですが、ここまで基礎を学んできたみなさんならしっかり理解できることでしょう！

LPN では「A は B です」に該当する表現は二種類あります。下記の説明と例文を通じて学んでいきましょう。

基本の語彙・表現

ᄇᆞᆯ (koz) (必); (A ᄇᆞᆯ B で) A は B である

ᄇᆞᆯ (niz) (必); (A ᄇᆞᆯ B で) A は B と異なる

ᄇᆞᆯᄇᆞᆯᄇᆞᆯᄇᆞᆯ (pyalwipyono); LPN を話す人、LPN 話者/スピーカー

koz と niz

基本的に「A は B だ」という表現は LPN では z 詞 ᄇᆞᆯ (koz/コジュ) を用いて 〈A ᄇᆞᆯ B〉、「A は B でない」は z 詞 ᄇᆞᆯ (niz/ニジュ) を用いて 〈A ᄇᆞᆯ B〉 と表します。ᄇᆞᆯ は正確には「異なる」という意味ですが、「～ではない」の意味でも用いられます。

SPL; ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯᄇᆞᆯ |

LTT; pa koz pyacoka |

JPN; 私は学生です。

SPL; ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯᄇᆞᆯᄇᆞᆯ |

LTT; pa koz pyalwipyono |

JPN; 私は LPN スピーカーです。

SPL; ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯ ᄇᆞᆯᄇᆞᆯ |

LTT; hyo niz lacoka |

JPN; あれは 学校 ではありません。

◌ (he) ㊦; 文頭標示(より正確な ◌ の使い方の解説は中級編に預けます)

◌ (hyali:); 地球

◌ (pyakikonya); 医者

◌ (cwala:pa); 回転、自転

◌ (ka); 知識、常識

◌ (na); 可能性

he の使い方

◌ (he/フとへの間のような音)は二つの文を繋げるときに、文頭の目印として使われます。〈(ものの名前 A) ◌ (ものの名前 B)〉を「AはBだ」の意味で用いることができます。また、◌ の後ろにはより複雑な文章を繋げることもできます。

SPL; ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ |

LTT; pa koz pyakikonya |

JPN; 私は医者です。こういう単純な表現では、普通は ◌ ◌ を使う

SPL; ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ |

LTT; na he 熊 ey pwe lo |

JPN; 熊が出るおそれ(可能性)があります。

◌ の後には ◌ を使った文章(動作文)が来ることもある

SPL; ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ |

LTT; hyo ne he to ke Sabrina ey pyaz |

JPN; 彼は Sabrina のお父さんではありません。

SPL; ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ ◌ |

LTT; ka he hyali: pe cwala:pa |

JPN; 地球が自転しているというのは常識だ。

hwe と hye

「～になる」「～だった」

he の未来と過去の形

「Aは将来Bになる」や「AはBになるだろう」というような未来の状態を表したい時や、「AはBだった」のような過去の状態を表したい時には、それぞれ q^+ (hwe/フエ) と q^- (hye/ヒエ) を用います。

位置や使い方は基本的に q と同じです。具体的な使用例は以下の例文を参考にしてください。

基本の語彙・表現

q^+ (hwe) ㊦; ~になる

q^- (hye) ㊦; ~だった

ㄱㄱ (totyo:); 高さ

ㄱㄷ (pyacika); 教師

例文

SPL; たかし q_k q^- ㄱㄱ |

LTT; たかし ey pyaz hye hi totyo: |

JPN; たかしは(以前は)背が低かった。今は成長して大きくなった

SPL; たかし q_k ㄱㄱ ㄷ |

LTT; たかし ey pyaz hi totyo: cyekyo |

JPN; たかしは昔から背が低かった。今も背が低いので q^- は使わない

SPL; たかし q_k q^+ ㄱㄷ |

LTT; たかし ey pyaz hwe pyacika |

JPN; たかしは将来教師になる。ある程度教師になる見込みが立っている

発展: 修飾語 + / - にはそれ自体に時制の区別がないので「Oは背が低かった」は単に $\langle \text{O} - \text{q}^- \text{ㄱㄱ} \rangle$ という。いつの時制の話をしているのかは文脈から判断する。ただし上の例文のように、文脈から不明瞭な場合や、今の状況と比較するためにあえて q^+/q^- をつけて表現することもある。

Ƶκ (taz); とともに (英語の with に相当)

ƶκ (nwiz); 代わりに (英語の instead に相当)

Ƶȱ (cisyo:); 襲う、攻撃する

Ƶȱ (tyasa:); 生き物

ƶȱ (lwipyɑ); 社会

ƶȱ (lyola:); 逃げる、避ける

SPL; ƶƵκ ƶƵȱƵκ ƶȱ |

LTT; pyɑ koz he taz lwipyɑ |

JPN; 人は社会性を持つ生き物だ。

具体的な誰かではなく、一般に人という生き物について話している。

SPL; ƶ ƶƵ'ƶȱƶκ ƶƵȱ ƶȱ |

LTT; pa pye so'lyola: nwiz he cisyo: kwe hyo |

JPN; 私は逃げられたが、代わりに彼が襲われた。

LPN のルールとエチケット

LPN ユーザーはかくあるべき

LPN を話すときのルールとエチケット

LPN には話すときに守るべきルールとエチケットが存在します。

ルールは主に LPN という言語を保存するために存在します。実際に話すときにあまり深く考える必要はありません。

また、LPN ユーザーにとってエチケットは文法と同じくらい大切です。LPN を話すときにはこれから紹介するエチケットをしっかりと守りましょう。

基本の語彙・表現

LPN のルール

○. (LPN の定義) LPN は「文法」「語彙」「LPN のルール」「LPN の教書」「LPN のエチケット」の五つの要素によって定義される。「文法」は最低限の文の構成を定義し、「語彙」は LPN の音素と意味の関連を定義する。「LPN の教書」ではそれ以外の実際の使用における範例などを定義する。これら三つによって定められる言語の決まりを「文法規範」と呼ぶ。

「ルール」と「エチケット」はそれぞれ、LPN という言語を話すコミュニティの性質を定義する。

LPN は言語であると同時に、LPN を使うコミュニティのルールそのものでもある

Φ. (LPN の創始者) LPN の創始者は twako である。以下で twako とは創始者を意味する。

Φ. (LPN に関する意思決定と中立性) twako は LPN にまつわる文法規範、ルール、エチケットの定義、変更についての決定権を持つ。文法規範や、以下で定めるルール、エチケットは twako または twako が認める意思決定機関によってのみ、変更が認められる。

たとえば LPN ユーザーの 80% が日本人だったとして、「日本人にとっては目的語が先に来る方がわかりやすいから、(主語)(△句)(Φ句)の語順を一般に認めよう」という人口に依存する変化を認めない。あえて変化を受け入れないことで、人工言語としての中立性を担保する。

Φ. (LPN 文の定義) LPN の文法規範に則り、必須語と借用語を適切に用いて使われる文を「LPN 文」と呼ぶ。使用すべき必須語が借用語のまま使われている場合は「非文」とみなされる。

△. (LPN の利用) LPN の固有語と借用語を自由に用いて自己表現をすることを「LPN を使う」と言う。また、必要最低限の借用語を用いて、可能な限り固有語を用いて自己表現をすることを「LPN を話す」と言う。

♀. (LPN の多様性) ある非一般的な表現は、LPN の文法や語法で明確に定義されていない限り、文法的な誤りとは認められない。

たとえば「私は嬉しい」を意味する〈Φ Φ ♀ ♀〉を〈Φ + ♀ ♀〉と表現しても間違いにはならない。

△. (LPN の指導に関する制限) LPN という言語の紹介や文法規範の解説は twako あるいは twako が認める意思決定機関によって認められた者のみ行うことができる。

♀. (LPN コミュニティ) LPN を使う/話す人を LPN ユーザーと呼び、LPN ユーザーは LPN コミュニティの構成員である。LPN ユーザーは上記のルールと、以下のエチケットを守る。

ᄃᄃᄃᄃᄃᄃ (pyalwipyopwico:); **すごいユーザー**

ᄃᄃᄃ (pyoka:); **意味**

ᄃᄃᄃ (hyam); (ᄃᄃᄃ [文章]ᄃᄃᄃ z の形で) [文章]と
いう

ᄃᄃᄃ は文末では省略されることがある。

ᄃᄃᄃ (hyoz); **使い方は中級編で解説**

LPN のエチケット

ᄃ. LPN を使うときは常に礼節と敬意を持って話す。

ᄃ. LPN ユーザーはなるべく固有語を使うよう努める。

ᄃ. 固有語を積極的に使うユーザーを「すごいユーザー」と呼んで褒める。

ᄃ. LPN ユーザーは、他人をけなしたり、非難したり、人を不快にさせる目的で LPN を使用しない。

ᄃ. 文法規範で明確に誤りであると定義されている場合を除いて、ある語法が間違いであるとは認められない。相手の表現が理解できない場合は「どのような意味ですか」と質問したり、「～と言いたいのですか」と言い直すなどして円滑なコミュニケーションを行う。

質問の例;

SPL; ᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃ ?

LTT; pyo pe **pyoka:** se nyez ?

JPN; どういう意味ですか?

SPL; ᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃ ~ ?

LTT; pyo pe **pyoka:** **hyam** ~ ?

JPN; ~という意味ですか?

SPL; ᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃᄃ ᄃᄃᄃ ~ ?

LTT; pyo pe **pyoka:** **hyoz** he ~ ?

JPN; ~という意味ですか?

おまけ; LPN 文法に 関する用語のまとめ

初級編のおさらい

たくさん学んだね

ここでは今までに学んだ用語の復習します。また、日常会話でよく使われる挨拶などの表現を学びましょう。

基本の語彙・表現

㊦ (lwa) ㊦; やあ

㊦㊦ (lwapo); こんにちは(丁寧)

㊦㊦ (pwapyo) ㊦; また話そう

㊦㊦ (pwalwa) ㊦; またね

㊦㊦㊦ (pwalwapo); またお会いしましょう

㊦㊦ (pwitwi) ㊦; ありがとう

㊦㊦ (nipa) ㊦; ごめんなさい

㊦㊦㊦'㊦㊦ (nepaco:'nipwi); すいません

用語

固有語; LPN 固有の言葉

必須語; LPN を使うときに借用語での説明が認められていない言葉

借用語; LPN 固有でない、他言語の語彙

e 詞; 語末が e の音で終わる言葉

m 詞; 語末が m の音で終わる言葉

x 詞; 語末が z の音で終わる言葉

句; LPN の文である機能を持つ語の塊。

標示; LPN においては、+/-/° と e 詞の総称

上音; 子音のこと

下音; 母音、または半母音と母音の組み合わせのこと

主音; 上音と下音の組み合わせのこと

末音; 音節の末尾に来る子音のこと

単音語; 一音節の語

多音語; 二音節以上の語

連語; 二語以上の語を〈〉で連結することで作られる語

存在文; 主句だけで形成される文

ㅏ (hoz) (必); よかった、やった、おめでとう

ㅁ (pwico:);すごい(と思う)

ㅎ (ci'pwico:);すごい(ことだ)

ㅑ (sala:to:);飛行機

ㅒ (sotyo:);新しい

ㅓ (tapapo);結婚

ㅔ (taco:);祝う、おめでとう

ㅕ (calopa);誕生日

ㅖ (cyala:);乗り物を操縦する、運転する

動作文; ㅁ句持つ文

連文; ㅑ節を持つ文

会話表現

SPL; ㅁㅁㅁ'ㅁㅁㅁ ㅑㅁㅁㅁㅁㅁㅁㅁ ?

LTT; ne paco:'nipwi lyoz he pyo pe pyoka: se nyez ?

JPN; すいませんが、どういう意味ですか？

〈ㅁㅁㅁ'ㅁㅁ〉は文字通りには「失礼なことをするつもりはないです」という意味になる

SPL; ㅕㅕ'ㅒㅒㅏ !

LTT; cacwa:'sotyo: hoz !

JPN; あけましておめでとう！

SPL; ㅕㅕㅏ !

LTT; calopa hoz !

JPN; 誕生日おめでとう！

SPL; ㅓㅓㅁㅓㅓㅓ |

LTT; taco: se tapapo |

JPN; 結婚おめでとうございます。

SPL; ㅓㅓㅕㅑ'ㅑㅑㅓ ㅑㅏ'ㅁㅁ !

LTT; po pe cyala:'sala:to: he ci'pwico: !

JPN; 飛行機を操縦できるなんてすごい！

SPL; ㅁㅁㅁㅁㅁ !

LTT; po pe pwico: sye po !

JPN; すごいね！

△ꄱ (sika); 忘れる

ꄱꄱ (twipwi:); 願いする

ꄱꄱꄱ (kikonya); 傷、体調が治る

SPL; ꄱꄱ'ꄱꄱ |

LTT; twipwi:'cika |

JPN; 教えてください。

SPL; ꄱꄱ ꄱꄱ |

LTT; twipwi: pyoz |

JPN; 教えて!

SPL; ꄱꄱ'ꄱꄱ | ꄱꄱ'ꄱꄱ |

LTT; twipwi:'pwitwi | pwitwi'twipwi: |

JPN; (直訳) 感謝しなさい、そして、お願いと言ってくれてありがとう。

(意訳) 人にもものを頼むときは「お願いします」と「ありがとう」をちゃんと言いましょう

LPN のことわざ/早口言葉のようなもので、人何かをしてもらうときは礼儀正しく「ꄱꄱ(お願いします)」と頼み、何かをしてもらったら「ꄱꄱ(ありがとう)」と言いましようという意味。子どもに礼儀を教えるときに使う。

SPL; ꄱꄱ ꄱꄱ (ꄱꄱ) | ꄱꄱ |

LTT; pwitwi sye lo (ke po) | pwalwa |

JPN; 来てくれてありがとう。またね。

SPL; ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ |

LTT; paco: he po pwe kikonya |

JPN; お早い回復を願っております。

SPL; ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ ꄱꄱ |

LTT; nipa sye hyam pa pye sika se calopa ke po |

JPN; あなたの誕生日を忘れてしまっていてごめんなさい。